

## 新しい反戦平和勢力 生んだ

団体役員

(大阪府 60)

反戦運動はそうではない。

よそから持ち込まれた思想や政治理念からではなく、素朴な疑問や、自分や家族を大切にしたいという、人として当然な気持ちから発言し、行動している。だから世代を超え、思想信条を超えて共感は広がり、多くの人々が応援している。

若者や子育て中のママたちの新しい運動は、今後も根強く広がっていくだろう。私も共に行動し続けよう。私共共々決意した。安倍晋三首相と自公政権は「戦争法」と同時に、大きな反戦平和勢力を生み出した。

若者や子育て中のママたちの新しい運動は、今後も根強く広がっていくだろう。私も共に行動し続けよう。私共共々決意した。安倍晋三首相と自公政権は「戦争法」と同時に、大きな反戦平和勢力を生み出した。

## 未来のために過去を学ぼう

作家

(東京都 83)

連休最終日の23日、ふと思いつき国会議事堂へ足を向けた。

国会も休日のせいかわ、警察車両が隙間なく並ぶものの、路上はがらんとしていた。しかし、道路一本へだてて「不殺生」の

プラカードを掲げた青年僧がいた。「選挙で平和な日本を取り戻そう」「行く選挙 行かない戦地」「僕らがつくる 平和な日本を」など手づくりのメッセージを並べたメガネの青年と、ひげだらけの青年もいた。

メガネの青年は22日から来ているという。私が「野宿?」と聞くと、「いえ、ホテルに」と

笑う。「戦争になったら、民間人はどうなるのかの事実を知ってほしい」と私は言った。立ち話をしていた気づいたが、地方から来た彼らは、首都の東京で一夜にして10万人もが死んだ東京大空襲の惨禍はご存じないようだった。

「知っているなら伝えよう、知らないなら学ぼう」と呼びかけてきたが、過去の歴史を民間人の立場から知ること、学ぶことが、いまこそすべての人たちの規範となるべきである。とりわけ安全保障法制阻止で、連日国会を包囲した学生やママさんたちに私はこう言いたい。過去は未来のためである、と。